

軽度の知的障害や発達障害のある生徒の内面を重視した指導法に関する研究（令和元年度）

研究代表者

武田鉄郎

共同研究者

<附属特別支援学校>

北岡大輔 小畑伸五 道上里砂 鶴岡尚子

三木理恵子 中筋千晶 久保田竜生 宗田直美

<和歌山大学大学院生>

井関迪恵 志賀大輝

1. 研究の経緯と目的

A 特別支援学校高等部では、高等部段階から入学する生徒を対象とし、職業的な自立を教育目標とする B コースを設けている。このコースに入学してくる生徒は、知的障害の程度は軽度であるものの、その多くが発達障害あるいはそれと類似した困難さを抱えている。また、中学校からの引き継ぎや、入学後の本人の語りからは、ほとんどが小・中学校段階に不登校やいじめ被害を経験している。そのため、自分に自信が持てなかったり、心理状態が不安定だったりする生徒も少なくない。中には心理的に不安定な場外を不適応行動や非社会的行動として表面化させてしまう生徒もいる。

毎年、B コースの 1 年生を対象に TSCC（子ども用トラウマ症状チェックリスト）および TRF（教師版子どもの行動チェックリスト）を用いてアセスメントを行っている。TSCC の結果からは、X 年から X+7 年の 7 年間に入学した生徒 35 名のうち、31.4%の生徒が何らかのトラウマ症状を呈していることが示された。また、同対象に対する TRF の結果からは、いずれかの下位尺度において何からの心理／社会的不適応があると示された生徒は 82.9%に上った。

そこで、B コースにおいては、心理教育の視点も含めながらカリキュラムの見直しを行い、時間割に「セルフデザイン」という領域・教科を合わせた指導を位置付けた。このセルフデザインでは、他者とのよりよい関係を築くための基盤を整えること、その中での関わり合いを通して他者と不安や悩みを共有できる環境を保障すること、その上で自己理解を促し、自尊感情を高めていけるような学習を進めていくことを大切にしている。具体的には、ピアサポートや構成的エンカウンターグループ、ソーシャルスキルトレーニング、認知行動療法、SEL（社会性と情動の学習）の理念や手法を取り入れながら、授業を計画している。また、高等部の 3 年間という限られた時間の中で、生徒が有意義に学んでいくことができるように、高等部の 1 年生段階では「自信回復・仲間づくり」を、2 年生段階では「自己理解」を、3 年生段階では「将来に向けて」を中心として、3 年間にわたる計画を作成している。実際の指導では、この 3 年間

計画をもとにするとともに、生徒の理解および心理的な状態にも応じながら動的に授業を計画するようにしている。

現在、生徒たちはよく、休憩時間に互いにクラスを行き来したり、授業で互いに関わり合いながら学習に取り組んだりしている。その一方で、発達障害の特性や人に対する不信感から、他者のことを一面的に捉えてしまうことも少なくない。結果的に、相手を一方的に責めてしまったり、自分本位な関わり方をしてしまったりして、トラブルへと発展してしまうことがよく見られる。そこで、本年度は生徒同士の関係性の構築に視点を当て、人の多様性について気づくことができるような授業実践について検討する。

2. 対象

A 特別支援学校高等部 B コースに在籍する 1～3 年生 14 名

3. 方法

「人との付き合い方を考えてみよう—その人のこと、ちゃんと見えている?—」という主題で授業を計画した。この授業では相手のことを一面的に捉えるのではなく、その人の中にある多様さに気づかせていきたい。しかし、実際には人それぞれの特性や性格などは簡単に目で見ることにはできない。特に発達障害等の特性のある対象生徒にとっては、それらをイメージし、考えていくことは容易ではない。そのため、教材としては具体的で目に見えるもの、ある程度直感的に理解できるものを用意する必要がある。

そこで、本授業では教材として、図 1 のような 4 つの人物像を用いることとした。この人物像は「①生徒の間で日頃から問題として挙がっていること」「②生徒自身が悩みとして抱えていること」「③生徒たちが日頃見落としがちな人の多様な性格や特性、考え方」の 3 点について教員間で協議し、まとめたものである。

表 1 に本授業の展開を示す。授業では、指導者がこの 4 つの人物像の特徴を上から 1 段ずつ提示していき、その都度「4 人のうち誰と一番仲よくなりたいか」を考えるワークを行った。このワークでは、生徒が 3 名ないし 2 名のグループで協議し、その結果をミニホワイトボードに書いて、選んだ理由とともに発表できるようにした。そうすることにより、人には第一印象とはまた異なる側面があり、誰が一番かを選ぼうとすることで生まれる葛藤に気づかせたいと考えた。

A	B	C	D
怒りっぽい	みんなの前で、マイナスな発言が多い	いつもよく分からないことを言っている	話し合いなどでみんなの意見をまとめて、頼りにされている
人と目を合わせない	気持ちを伝えるのが苦手だが、いつもみんなのことを考えて行動する	楽しいことを見つけるのが得意	友だちが悩んでいるときには何でも相談にのっている
そんな自分のことを何とかしたいと思い悩み、一人のときには涙することもある	ムスツとしていることが多い	人が嫌がることも自分から進んでする	話は面白いが、人のことをディスることも多い
人に見えないところで努力をしている	絶対に人のことを悪く言わない	人と仲よくしたいと思っているが、言葉で伝えることが苦手	ファッションがおしゃれで、人のファッションにもコメントをする
運動が得意で全国大会にも行っている	どんなにしんどいことでも、自分の納得のいくところまでやりきる	運動が苦手	こつこつと勉強して、テストでもよい点をとっている

図1 教材「4つの人物像」

表1 授業の展開

学習活動
1. 学習課題を確認する「人との付き合い方を考えてみよう」 2. ワーク「4つの人物像のうち、一番仲よくなりたいと思うのは誰？」に取り組む ①スライドで提示された4つの人物像を見る（はじめは一番上の段の特徴のみ） ②2、3人のグループで、4つの人物像のうち誰と一番仲よくなりたいかを協議する ③選んだ結果をミニホワイトボードに記入する ④理由とともに誰を選んだかを発表する ⑤4つの人物像の特徴が1段増えるごとに②～④を繰り返す 3. 選ぶ中で感じた気づきや葛藤などを伝え合う 4. ワークシートに自分の考えをまとめる「人との付き合い方で、これから自分ができることは何だろう」

4. 結果と考察

この授業では 14 名の生徒が 2、3 人ずつの 5 つのグループに分かれて、ワーク「4 つの人物像のうち、一番仲よくなりたいと思うのは誰？」に取り組んだ。

4 つの人物像の特徴として一番上の段のみを提示した際には、5 つすべてのグループが D を選んだ。その理由として生徒たちは「裏表がなさそうで真っすぐ」「みんなの意見を聞いて周りを思いやっている」などを挙げていた。



しかし、2 段目の特徴が提示されたときにはグループ間で B、C、D に意見が分かれはじめた。このときには、「B のことを予めきちんと理解しておいたら、マイナス発言が多いのも気にならない」「よく分からないことを言っている C だけど、悪いことを言いふらしたりはしなさそう」などの意見が挙げられた。

3 段目以降になると、それぞれのグループ内で意見を 1 つにまとめることを難しそうにする様子が見られるようになってきた。生徒たちは、人物像を複数選んで発表したり、「A、B、C、D の 4 人ともいいとは思いますが、強いて選ぶなら」と前置きをしたうえで 1 つに決めて発表したりしていた。

このワークを通して考えたこと、およびこれから自分ができることについて、生徒がまとめたものを表 2 に抜粋した。

ワークを通しては、生徒の多くが「人との付き合い方は楽しいだけで決めたらダメなんだと思います」「とりあえず、相手の良い点、悪い点が 4 つや 5 つでもいいから理解する」など、人に対する自分の見方を見直してみたいと感じたということをまとめていた。中には「嫌いと思っている人は、その部分が大きく見えてしまうので」「改めて考えてみると、仲の良い人の悪いところや仲の悪い人のいいところが、そんなに思い浮かばなかったから、自分は他人をかなり一方的に見ていたんだとわかった」と、つい陥りがちになってしまう自分の人の見方への気付きをまとめている生徒も見られた。また、「自分が苦手なことも克服していき、BさんとCさんのような人になっていこうと思った」など、人物像と重ね合わせて、自分のことを考えようとする生徒もいた。

これから自分ができることについては主に「見方を変えてみて、少しでも人のことを理解すること」「言葉で伝えるのが苦手な人のことを笑わないこと」「まずは自分が嫌だと思っている人に話しかけられたら話してみる。そしてもう一度見つめなおしてみる」などが挙げられた。また、「人との付き合い方が分からなくなったら、先生などに相談する」など、困ったときに自

分一人で対処するだけではなく、誰かの助けを借りることも含めて考えている生徒もいた。

この授業の初め、学習課題を伝える際、生徒たちに「日頃の友だち付き合いの中で悩んでいることやうまくいかなさを感じている人が多いのではないですか」と尋ねた。そのときには、多くの生徒が静かに頷いた。このような姿からは、生徒自身が日頃の友だち関係に課題意識を持っていること、また、そのことが分かっているにも関わらず、うまく対応できない歯がゆさを抱えていることがうかがえる。授業の中でも、誰一人として他の生徒の発言を茶化したり、否定したりすることなく、生徒たちは真剣に考えを伝え合っていた。

友だちとの付き合いについては、どこかで歪^{ひず}みのようなものを感じていたとしても、相手との関係性の中で、言葉にはしにくい。それぞれが「何かおかしいな」と感じていても、話の盛り上がりの流れを遮るわけにはいかず、結果として誰かが傷つくような結果に陥ってしまうことも少なくない。

そのような中、今回、生徒たちが身近に感じることができるような4つの人物像をターゲットとしてワークを行ったことは有効であった。生徒たちは俯瞰的な視点から、他者を理解すること、関係を気づくことなどについて真剣に考えることができていた。

また、人物像の性格や特徴などの視覚的、段階的な提示は、他者の内面の理解を苦手とする多くの生徒にとって、理解しやすいものであったと考えられる。生徒からも「上の方（の特徴）を見るだけでなく、下の方（の特徴）を見たりすると、幅も広がって、見えなかったところも見えてくると思いました」と、このモデルを見ながら自分自身の人の見方を省みようとする感想が挙げられた。しかし、人の内面については本来、この4つ人物像のように単純でもなければ、常に定まっているものでもない。そのため、今後継続して他者の多面的な見方について指導を行っていく際には、誤解を生まないように留意する必要がある。

今回の授業を通して生徒たちは、他者との関係がうまくいかないときには相手を責めるだけではなく、自分のことも省みてみる大切であるということに気付いていた。しかし、実際の関係性の中で、そのことを実際に行動に移していくことはおそらく容易ではない。今回の授業はあくまで指標であり、生徒が思い悩んだり、トラブルを引き起こしてしまったりした際に、ここに立ち戻って考えることができるように指導を行っていくことを大切にしたい。

5. 倫理的配慮

A特別支援学校では、研究授業内容や実践内容等得られた成果を、学術雑誌などに発表する場合があること、児童生徒のプライバシーには慎重に配慮すること、個人が特定できる情報を公表しないこと、研究に協力が得られない場合でも何ら不利益は生じないことなどについて、児童生徒本人および保護者に説明のうえ、同意を得ている。

表1 生徒の感想とまとめ（一部抜粋）

ワークを通して考えたこと	これから自分ができること
<ul style="list-style-type: none"> ・人の考えも大切だと思いました。 ・小学校の時にいじめられたので、すごい悲しかったことを思い出しました。 ・得意なことや苦手なことを押し付けるのはダメだと思います。 ・人との付き合い方は楽しいだけで決めたらダメなんだと思いました。 ・とりあえず相手の良い点、悪い点が4つや5つでも良いから理解する。 ・人との付き合いはこれまで自分は甘く見ていたけど、人との付き合いは厳しいことなんだと改めてわかったのでよかった。 ・嫌だなと思っていたとしても、その人のいいところを見つけていったりすると仲良くできるのかなと思いました。 ・上の方を見るだけでなく、下の方を見たりすると、幅が広がって、見えなかったところも見えてくると思いました。 ・友だちの性格を知ることが大事。 ・自分が苦手なことも克服していき、BさんとCさんのような人になっていこうと思った。 ・改めて考えてみると、中のいい人の悪いところや仲の悪い人のいいところが、そんなに思い浮かばなかったから、自分は他人をかなり一方的に見ていたんだとわかった。 ・嫌いな人をあの人は嫌いでは終わるのではなくて、その人のいいところなども見つけるようにすると、その人の見方も変わるかな、と思った。 ・嫌いと思っている人は、その部分が大きく見えてしまうので、いい部分を見つけられるように見方を変える。 ・人をからかったり、変なことをするのは、よろしくないと思った。 ・今日の授業で本音を伝えるのが苦手な自分でも大丈夫なのかなと思ったり、誰かを支えることなんてあまりできないのかなと不安になったりしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人との付き合い方が分からなくなったら、先生などに相談をする。 ・改めて、自分をもう一度見つめなおしてみる。そして、自分がちゃんと考えて判断して、信じてあげる。 ・見方を変えてみて、少しでも人のことを理解すること。 ・まずは、自分が嫌だと思っている人に話しかけられたら話してみる。そして、もう一度見つめなおしてみる ・人のことを軽蔑しない。 ・人のいいところを見る。 ・嫌な友達でも少しずついいところを見つけていく。 ・友だちといっぱい話して、休日に友だちと遊ぶなど付き合いを増やす。 ・自分が今苦手としている人のことを少しずつ見えて知っていくこと。 ・嫌いと思っていた人の嫌な部分だけを大きく見るのではなくていい部分も見つけてその人の見方を変える ・ほんの少し、人のいいところを考えること、人助け。 ・相手が何かを失敗して、その人に対して信用が落ちたような言葉を浴びせないこと。 ・言葉で気持ちを伝えるのが苦手な人のことを笑わないこと。 ・正しい言葉を考えて話す。（一度出した言葉は戻らないから）